最高・最新の医療を安心と信頼の下で

福井大学病院だより

UNIVERSITY OF FUKUI HOSPITAL

第13号
2009.05月
発刊号

病院長あいさつ

福井大学医学部附属病院の最近の取り組み

UNIVERSITY OF FUKUI HOSPITAL
TOPICS

カプセル内視鏡

診療科・部門・施設のご案内

光学医療診療部の移転について
[光学医療診療部]

特殊診療施設案内
[分娩部]

がんの患者さんとそのご家族の方へ
[看護部]

安全で高品質な歯科口腔外科医療の提供と地域病診連携
[歯科口腔外科領域]

診療支援部の設立紹介

臨床教育研修センターが完成しました

はなみずき保育園開設について

病院用語Q&A　患者さんのこえ

□出来事　□イベント情報

福井大学医学部附属病院
0776-61-3111（代表）
様々な情報が満載です。ホームページもご覧ください。
http://www1.fukui-med.ac.jp/home/ufh/

[今月号の職員]
リハビリテーション部
北野 真弓 きたのまゆみ

福井大学医学部附属病院の最近 の取り組み

福井大学医学部附属病院長
山口 明夫 やまぐち あきお

福井大学病院を取り巻く環境も年々変化していますが、これらに対応して最良の医療を提供できるように、病院全体で取り組んでいるところであります。昨年から今年にかけても病院内のいくつかの新しい取り組みが行われましたので、最近の動きをご紹介させていただきます。

当院での内視鏡検査が増えて、光学医療診療部の狭隘が問題となっていましたが、それを解決するために、この度新しく光学医療診療部を1階の旧CT室に移転、拡充いたしました。内視鏡室のブースが増えるとともに、内視鏡超音波診断システムの設置、カプセル内視鏡やシングルバルーン小腸内視鏡システムなど新しい装置の導入を行いましたので、今まで以上に充実した光学医療診療部として、最高の診療を提供できるようになりました。最近は病院にお見えになるがんの患者さんが多くなっているのが目立ちます。がん診療推進センターを中心に、その診療内容の充実を図り、あらたにキャンサーボード部門を立ち上げて、各診療科のがん専門の先生方による治療方針等の検討やがん診療に関する教育を行い、病院機能のさらなる推進を目指しています。今後治療成績の公表などを進めて、安心してがん診療を受けていただくように、病院としても努力してまいりたいと考えています。またがん相談窓口と緩和ケアチームには専従看護師を配置して、さらに5月からは緩和ケア外来を開始しましたので、ご利用いただければと思っています。一方手術件数は年々増加傾向にあり、平成20年度は4300件までになってきましたので、各診療科の手術枠に制限があり、長い間待っていただき、ご迷惑をおかけしていたのではないかと思います。4月から手術枠を少しではありますが拡大しましたので、手術待ち時間も少しは解消されるのではないかと考えています。また新たに中央診療施設の一つとして遺伝診療部を開設して、遺伝性疾患や遺伝子診療の実施にかかわる助言、指導ができるようになりました。まだ立ち上がったばかりではありますが、正確な情報の提供やカウンリングを行い、患者さんやご家族の方々の遺伝病に対する悩みの解消を図り、心理社会的支援を行っていきます。秘密保持とプライバシーの保護には万全の配慮をとってまいりますので、ご利用いただければと思っています。また関連病院の先生方で、遺伝病に関する患者さんがおられましたなら、ご紹介いただけるようお願いいたします。最近は医療訴訟などの問題が増えてきていますが、トラブルが発生しそうな時に、患者さんと医療者側の間に立ち、中立的立場で双方の意見を聞いて、問題解決に導く役割を担った医療メディエーターを配置しました。正式には6月の講習会終了後に本格的に活動していただくことになっていますが、診療上のことなどで何か問題がございましたなら、この医療メディエーメディエーターに気軽にご相談下さい。

病院設備の面では、病院開設25周年の事業として計画されました臨床教育研修センターが完成し、3月30日に無事竣工式がとりおこなわれました。特にこのセンター内のスキルラボには、実技修練のための器具やシミュレーターが多く配備され、多くの実技練習を行うことが叶い、各人のスキルアップが図られて、実際の現場での医療行為がより安全に行われるようになると期待されます。将来的には内視鏡手術などさらに高度な技術を習得する機器も整備し、著しい医療技術の進歩に対応しながら、多くの方の医療水準の向上に活用できる場としていきたいと考えています。またメインホールやセミナー室では病院教職員のみならず院外の医療関係者、患者さん、ご家族も参加できる講習会や研修会などを開催して、生涯学習の拠点としての機能も併せ持ちたいと考えていますので、是非ご利用いただければ幸いです。前回も紹介いたしましたが、昨年12月末に病院正面に駐車場を拡充して、新たに約90台の車の駐車が可能となりました。当院へは9割の方が自家用車で来院され、かねてより多くの方から駐車場の整備の要望が強くありましたが、それにようやく応えることができました。また福井大学法人本部の取り計らいで病院の敷地内に教職員から要望が強かった保育所がようやく完成の運びとなりました。「はなみずき保育所」と命名され、同じく3月30日に竣工式がおこなわれ、4月から利用可能となりました。さらに女性医師の短時間雇用も可能となりましたので、保育所とあわせまして、女性医師の離職防止や復帰支援、出産・育児と勤務との両立が安心して行う環境が整いました。病院の再整備に関しましては前回報告させていただきましたが、解決しなくてはならない問題も多く、多くの方々からのアドバイスも参考にして、満足のいく再整備となるように病院全体で努力しておりますので、その詳細につきましてはしばらくお待ち下さい。

この4月からは50数名の初期研修医と専門研修医があらたに福井大学病院で研修に入りました。その他多くの看護師をはじめとするコメディカルの人たちも新しく病院で仕事を始め、それぞれが大きな夢を持って、医療人として一流のプロとなるための第一歩を踏み出しました。優秀な医療人となって、福井大学病院の将来を担うとともに、地域医療にも大きく貢献してくれると確信していますので、皆様にもご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。福井大学病院も開院して26年目に入り、この間高度先進医療を行うとともに、地域医療の中枢としての役割を果たしてきたとの自負がありますが、今後も病院の理念であります「最高・最新の医療を安心と信頼の下で」を実践するべく努力していきたいと思っていますので、皆様にはご支援をどうかよろしくお願い申し上げます。

飲み込むだけの小腸内視鏡検査 カプセル内視鏡

カプセル型の内視鏡を飲み込むだけで小腸を観察できる
カプセル内視鏡のご案内です。

Qカプセル内視鏡検査とは?

超小型カメラを内蔵したカプセルを飲み込むだけで小腸が観察できる検査です。

長さ26mm x 幅11mmのカプセル型内視鏡をビタミン剤のように口から飲むだけの内視鏡検査です。カプセルには超小型カメラが内蔵されていて消化管を通過しながら、1秒間に2枚の画像を撮影し、撮影された画像は記録装置に転送、保存されます。医師はこの画像を読影して小腸疾患の診断を行います。

カプセル内視鏡

Qカプセル内視鏡検査の特徴は?

今までの小腸内視鏡検査に比べて、苦痛がほとんどありません

従来の小腸内視鏡検査と違って、カプセル型の内視鏡を飲み込むだけですから、苦痛はほとんどありません。検査時間は約8時間ですが検査中は病院から自由に外出することができます。検査開始2時間後から飲水ができ、4時間後からは軽い食事を取ることもできます。

カプセル内視鏡による
小腸潰瘍の画像

ワークステーション

Qカプセル内視鏡の目的は?

特に原因不明の消化管出血の診断に有用です。

小腸は全長6〜7mと体内で最も長い臓器のため、従来の内視鏡検査やその他の検査方法では十分な観察が出来ませんでした。カプセル内視鏡では従来の検査で見逃されてきた小腸病変の検出が可能であり、特に原因不明の消化管出血(上部および下部消化管検査を実施しても出血源が不明な症例)の診断には威力を発揮します。カプセル内視鏡は原因不明の消化管出血の診断や種々の小腸疾患の早期診断、早期治療に有用な検査です。

ステーション画面

Q誰でも検査できるの?

カプセルが小腸内に長く滞留(引っかかる)する可能性のある場合はできません。

腸閉塞、嚥下障害、消化管狭窄、下腹部への放射線治療後遺症(放射線性小腸炎)、消化管運動機能障害などカプセルが小腸内に滞留する可能性が高く、シングルバルーン小腸内視鏡によるカプセル回収を拒否する場合は適応外となります。また、認知症、その他の疾患で検査に協力できない症例、ペースメーカー埋込症例、妊娠も原則として適応外とします。未成年者は親の承諾が必要です。

Qカプセル内視鏡検査の流れは?

検査は約8時間を要しますが検査中は自由に外出できます。

①検査前日
・消化の良い食事を午後10時までに取り、その後の飲食はお控えください。
・喫煙はカプセルを飲む24時間前からおやめください

②検査開始
・午前9時前に内科外来にてアンテナを腹部に貼付し、記録装置をベルトで腰に付けてから、カプセル内視鏡を適量の水で飲み込みます。
・その後は職場に、ご家庭に自由にお戻りいただけます。

③検査終了
・約8時間後の午後5時前に病院に戻り、内科外来にてアンテナと記録装置を回収します。
・カプセルは排便時に、体外に排出されます。

＊カプセル内視鏡検査は保険適応です。

センサアレイ取り付け図

カプセル内視鏡検査のご予約・お問い合わせは

特定機能病院 福井大学医学部付属病院
光学医療診療部 消化器内科
〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3
専用電話(平日9:00〜17:00)…0776-61-8351
時間外FAX(24時間受付)……0776-61-8110

検 査 日 毎週月〜金曜日
検査料金 約28,000円
(3割負担の場合)

光学医療診療部の移転について

[光学医療診療部] 山崎 幸直

光学医療診療部は平成21年3月2日から1階放射線部旧CT室跡に移転し、新光学医療診療部として心機一転、新たに内視鏡診療を開始致しました。また、平成20年度にはEUS-FNAシステム（超音波内視鏡穿刺診断装置）を中心とした概算要求が認められ、多数の内視鏡システムが新たに新光学医療診療部に導入され、今後の内視鏡診療において飛躍的な質の向上が期待されます。

当院の内視鏡診療は開院当時から2階検査部横の旧光学医療診療部で行われてきました。全国の国立大学光学医療診療部の中でもワースト5に入る検査スペースの狭さで、現在の多様化した内視鏡診療の遂行には明らかに支障がありました。そのような環境でも内視鏡診療に携わる診療科の協力で内視鏡検査件数は年々増加の一途を辿り、平成19年度には前年度より約600件増の約4500件（放射線部透視下検査を含む）の検査件数を達成することが出来ました。今回の移転に伴う検査室増室を機に平成21年度は内視鏡件数5000件突破を目標にしたいと考えております。

新光学医療診療部では上部消化管検査室2室、下部消化管検査室2室の計4検査室を設け（旧光学医療診療部検査室は3室）、上下部検査室各々1室は廊下側から直接、ベッドでの入室可能な入口を設置し、重症患者さんの内視鏡診療をよりスムーズに出来るように配慮しました。この上部検査室にはSARS等の呼吸器感染症患者の内視鏡診療を想定して、陰圧式空調設備を設置しました。また、下部消化管検査室には各々1室ごとに更衣室兼トイレを設置し、検査を受けられる患者さんのニーズに対応しました。更に今回、滅菌管理部に隣接する場所への移転に伴い、滅菌管理部内のスペースを一部提供して頂き、新規に内視鏡洗浄室を増設しました。内視鏡洗浄専用スペースを確保できたことは医療安全ならびに感染制御の観点からも非常に意義のあるものと考えています。

新たに導入された内視鏡機器は先に述べたEUS-FNAシステム、シングルバルーン小腸内視鏡システム、カプセル内視鏡システムを始めとする特殊内視鏡システムと通常内視鏡観察時に瞬時に切り替え可能な特殊光観察システム（NBI：narrow band imaging）を搭載した光源装置4台、最新の上部下部内視鏡スコープおよび気管支鏡スコープなどです。EUS-FNAシステム、シングルバルーン小腸内視鏡システム、カプセル内視鏡システムはいずれも県内初の導入であり、県内の医療を牽引する立場にある当院の役割を十分に果たすことが出来る環境が整ったと言えます。

昨今の内視鏡診療分野の発展は目覚しいものがあり、新光学医療診療部ではこれらの最新機器を使用して、「最高・最新の医療を安心と信頼の下で」の当院の基本理念に沿った内視鏡診療を展開して行きたいと考えております。

特殊診療施設案内

[分娩部] 分娩部部長 小辻 文和

目標

分娩部は、新しい生命の誕生に際し、母児双方に世界最高水準の医療を提供することを目標としています。

診療体制

加賀平野～福井県～京都府北部地域には、全国有数の周産期診療圏ネットワークが確立されており、当診療部はその中核施設の役割を果たしています。また、日本周産期・新生児医学会より、「周産期母体・胎児専門医の基幹研修施設」に認定されています。主たる業務は、診療圏内の医療施設から紹介される、高度管理を必要とするハイリスク妊娠の診療です。これとは別に、福井社会保険病院との連携を軸に、正常妊娠分娩の管理にも力を入れています。福井社会保険病院が外来機能を担い、本院が入院機能を果たすシステムは、住民に、「“利便性”を失うことなく“高度医療”を提供する医療体制」として、全国の注目を集めています。

診療の特色

❶前置・癒着胎盤に対する安全な手術法（子宮底部横切開法）を開発しました。
前置・癒着胎盤は妊婦死亡の主因であり、この帝王切開は産科医に最もストレスの強い状況です。現在、私たちの開発した術式の全国への普及指導に努めています。
❷腹膜を切開しない、しかも、安全な帝王切開術を開発しました。
近年の周産期医療事情により、帝切の頻度は急増しています。特に、最近になり、双胎妊娠が帝切の適応となったこと、また、1度帝切を受けると以後の分娩の全てが帝切の適応となったことから、この傾向に拍車がかかることが予想されます。繰り返される帝切により、腹腔内に癒着を持つ方が増えてきました。このことは、将来の腹部手術を受ける際の大きなハンディとなります。腹膜を切開しない術式により、既に腹腔内癒着のある方にも安全に帝切ができます。また、希望される方には、初回の帝切にも、腹腔内の癒着を防止するために、この術式（腹膜外帝切法）を行っています。現在、術式を全国に普及中です。
❸未熟児診療部門との密接な協力により、超早産児（在胎28週未満で出生した赤ちゃん）、超低出生体重児（1,000 g未満で出生した赤ちゃん）を救命しています。診療成績は、わが国のトップクラスです。

今後の抱負

2年後には、NICUの開設が予定されています。これに伴い、生殖医療部門、分娩部、未熟児診療部門が、同じユニットの中で稼動することになります。これを機に、3部門の緊密な連携による、「卵精子から新生児までの医療」、即ち、「生命の継承の医療」という、新しい概念の診療システムを立ち上げたいと考えています。

がんの患者さんとそのご家族の方へ

[がん診療推進センター] 看護師 高野 智早　竹之内 ひろみ

がん相談のご案内

福井大学医学部附属病院はがん診療拠点病院として、4月よりがん看護相談支援看護師が2名配置されました。私たちは当院に入院・外来通院中の方を問わず、がん患者さんとそのご家族の方の相談支援を行っています。自分のがんは一体どのような病気なのか、この治療で本当に良いのか、がんと言われて頭が真っ白になってしまった、家族としてがんである夫や妻をどう支えていったらよいのかなど、患者さんとそのご家族は多くの不安や悩みを抱え生活されているのではないかと思います。そのような不安や悩みを解消し、がんになってもその方らしく人生を送っていただけるよう、私たちは患者さんとそのご家族をサポートしていきたいと考えています。ご相談内容によっては、専門医や栄養士、薬剤師、必要時には緩和ケアチームとも連携し支援していきたいと思っています。ひとりで悩まず、まずはがん看護相談支援看護師にご相談ください。

よろず相談

緩和ケアチームのご案内

緩和ケアチームは、入院されているがんの患者さんまたはご家族を対象とした支援チームです。がんと診断を受けられたその時から対応させていただきます。がんの患者さんが「からだ」と「こころ」の調和を保ち、一日一日をたいせつに過ごせるように、さまざまな視点からのサポートを目指しています。

緩和ケアチームは医師（神経科精神科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、麻酔科、放射線科）、薬剤師、看護師など他職種スタッフによって構成されています。

相談内容として、病気になったことで起こるどのような事でもご相談に応じます。例えば、痛みやしびれなどの体の不快な症状が続く、「くすり」について分からない、手術を受けた後の食事のこと、これからの生活が心配、誰かに話を聞いて欲しい、誰に相談したらよいかわからない時など、ご相談のお申し込みは「担当医」または「看護師」にお伝え下さい。どのような状況であっても、その人らしくご自身の人生を歩む力となれますように、できる限りのサポートをさせていただきたいと活動しています。

がん体験者の会「みのり会」のご案内

「みのり会」はがん体験者の会です。対象者は、がん患者さんおよび家族の方、がん医療に興味のある方で、がんの部位は問いません。「みのり会」は、がん患者さんと家族の方が集い、語り合うことによって情報交換し心と身体を癒しQOL（生活の質）の維持・向上を図ることを目的としています。定例会は年に4回行っています。現在治療中の方、これから治療を受ける方、再発の不安を抱え生活されている方、がん患者さんの家族の方が、同じ体験をしている仲間と知り合う場となっています。興味・関心のある方は是非一度参加してみてください。

がん相談窓口	福井大学医学部附属病院 総合案内 相談受付時間 8:30～17:00 TEL:0776-61-3111 （内線）5882・5883
「みのり会」に関する問い合わせ先	福井大学医学部看護学科 成人・老人看護学 磯見 TEL:0776-61-8558（直通） 福井大学医学部附属病院 総合案内または外来通院治療センター

安全で高品質な歯科口腔外科医療の提供と地域病診連携

[歯科口腔外科領域] 准教授 植野 高章

高齢化社会をむかえ、自分の歯で食べることの重要性がますます高まっています。福井大学医学部附属病院歯科口腔外科では、口腔内に生じるさまざまな疾患に対し関連医科領域と密な連携をもって、県民のみなさまに高品質な治療を提供することを目指して臨床に取り組んでおります。また、地域医療機関との病診連携により遠隔地の方にも安心して受けられる高度で安全な医療の実現に努力しています。

交通事故で前歯を喪失した後に、骨移植と歯科インプラント治療で前歯を治療した症例（矢印）

歯科口腔外科診療

福井大学医学部附属病院歯科口腔外科では、口の中に生じるさまざまな疾患の診断・治療・予防に努めています。地域の開業歯科医院から親知らずの抜歯、全身疾患を有する方の抜歯、あごに生じる骨髄炎などの消炎治療、あごの骨折治療、あごの変形症治療、口やあごの中の腫瘍や嚢胞（袋）の治療、顎関節疾患の治療などについて紹介をいただいております。特に外来では、あごの骨の中に深くはえている親知らずの抜歯が必要な方を数多く紹介いただいています。また、小児のあごの中の過剰歯（放置すると大人の歯が生えてこなくなる原因となる余分な歯）など、外来での抜歯が困難な症例でも入院全身麻酔下に安全に抜歯を行なう体制を整えております。こうした治療が必要な方は受診ください。

また、当科では救急部と密接な連携をとって交通事故などによる顎顔面外傷や炎症に対して24時間救急体制をとっています。顔やあごの骨折に対しては迅速な処置を行うことで、噛み合わせのズレや、あごの関節の負担を最小限にすることができます。歯からの炎症も抗生物質を早期に使用することで重症化が防げます。また、その他の多様な顎口腔疾患についても入院下に治療できる体制を整えております。私たちは、豊富な口腔外科治療経験から個々人に最適な医療を提供することに全力をあげて取り組んでいます。

最近では喪失した歯を回復するための人工歯根（歯科インプラント）が普及しています。歯科インプラントは、取り外しの入れ歯（義歯）やブリッジに較べて、自分の歯に近い美しさや噛み合わせを回復する最新の歯科治療です。しかし、手術をしてあごの骨に歯科インプラントを植える手術や不足したあごの骨を増量する手術を行なわなければならない場合があります。福井大学医学部附属病院歯科口腔外科では、地域歯科医院との連携によりこうしたインプラント治療に関連した外科手術にも力をいれています。入れ歯などでお困りの方は、是非かかりつけ医とご相談の上、当科を受診ください。

上あごにできた嚢胞を手術で切除した症例。
X線写真で骨ができている状態が確認できる。

また、お身体に障害を持つ方や、心臓病や脳疾患などのため一般の歯科医院で診療を受けることが困難な方の口腔外科的治療にもかかりつけ医や本院他診療科と連携して取り組んでいます。また、恐怖心のため通常の歯科治療を受けることが困難な方に対しては、治療回数を減らし、肉体的苦痛を最小限にするために全身麻酔下に治療を行なっています。

歯科先進医療

当科では、あごの変形症の手術についても矯正歯科専門医とチーム医療を行なっています。歯科矯正治療では回復が難しい噛み合わせが大きくズレたあごの骨を、入院して全身麻酔手術を行ない、口の中からあごの骨を切りはなして固定し、正常な噛み合わせに回復します。手術後はあと戻りしないように術後矯正治療が必要な場合もあります。

また歯科インプラント治療を行なうために、あごの骨を増やす骨移植手術も数多く実践し、いずれも高い成功率を得ています。

受け口の噛み合わせを外科手術で治療

診療支援部の設立紹介

診療支援と患者サービス向上をめざして

診療支援部副部長　東村 享治

1. 診療支援部の設立について

平成21年3月より、従来の検査部や輸血部、病理部、手術部、放射線部、リハビリテーション部、MEセンター部、歯科口腔外科、眼科等の技術職員を総括する診療支援部が設置されました。この診療支援部の設置は、全国の国立大学病院としては17番目であります。この部門の目的は、医療技術、機器の進歩がめざましい中で診療上必要とする技術の提供を迅速、且つ円滑に行い、大学病院の限られた技術職員の人的資源を有効に利用し、豊かな医療人としての教育を行い、患者さんの安全確保と診療の質向上を図ることです。

診療支援部の設立記念会が、4月9日夕方より臨床教育研修センター2Fのメインホール（白翁会ホール）で関連部員80名集めて開催されました。診療支援部長の山口病院長より、診療支援部設立についての経緯を含めた挨拶や診療支援部の組織と運用についての説明、さらに各部門長からの「部門の紹介」等が報告されました。

さらに特別記念講演として、名古屋大学医学部附属病院医療技術部長の森下芳孝先生より「診療支援部がめざすもの」についてご講演いただき、その後に部員全員の記念撮影や部員親睦会等で部員同士の交流等も行われました。

診療支援部の記念写真

2. 診療支援部の組織体制

診療支援部の組織体制ですが、診療支援部長、副部長のもとに4つの部門があり、各部門長がいて、下記の関連する技術職員が対象となります。

①臨床検査部門

●血清、生化学、血液、細菌の検体検査、心電図、超音波、脳波、筋電図などの生理機能検査、採血支援業務やICT活動、専門ドック業務、糖尿病療養指導、NST 活動などの診療支援を行う検査部の臨床検査技師　●血液製剤の管理や輸血検査を行う輸血部の臨床検査技師

●組織診標本と細胞診標本を作成し、病理診断および細胞診断、電子顕微鏡を用いた超微形態学的診断を行う病理部の臨床検査技師

●術中モニタリング、術中の検査、内視鏡の準備、術中標本の写真、自己血の回収、輸血の準備などを行う手術部の臨床検査技師

②放射線部門

●胸腹部単純検査や骨・歯科X線検査、バリウム等を用いたX線TV検査、心臓カテーテル検査、CT,MR検査等を行う診療放射線技師

●放射線薬品を利用したPET-CT 検査等を行う核医学専門技師

●IMRT 等の高度な放射線治療を行う放射線治療専門技師

③リハビリテーション部門

●手足の麻痺、歩行能力、呼吸循環期疾患後の運動能力評価と治療を行う理学療法士

●基本的な日常生活動作の改善や社会適応能力の改善を行う作業療法士

●ことばによる障害や摂食・嚥下の問題に対応する言語聴覚士

●視機能・視野検査を行う視能訓練士

④臨床工学部門

●人工心肺装置や人工透析装置、人工呼吸器、ペースメーカ等の生命維持管理装置の操作やメンテナンスを担当する臨床工学技士

●院内の医療機器の点検を行う臨床工学技士

●歯科口腔外科で入れ歯やインプラントの補助装置作成や顎関節症治療用装置の作成を行う歯科技工士

●歯・口腔外科手術の介助や歯科保健の指導を行う歯科衛生士

3. 診療支援部の活動内容

診療支援部として、診療支援部会と3つの連絡部会を設けて4月より活動を開始しています。診療支援部の具体的な活動内容とは、

①患者本位の診療に向けて、各専門技術をフルに発揮できる職場環境をめざして柔軟な対応と連携にて効率的な運用を図る。

②各部門の安全システムを構築し、各部員の安全行動を周知徹底する。

③組織的な教育・研修制度を構築して、豊かな人間性を兼ね備えた技術職員をめざす。

4. 今後の活動について

今後は診療支援のためのワークフローを効率化して、患者さんに安全で安心な良い医療サービスを提供できるように活動していきます。そのためには各部門が職種の垣根を越えて協力関係をもち、医療を取り巻くさまざまな問題に真摯に向き合い解決していける技術集団となれるようにがんばっていきたいと思います。今後とも診療支援部の活動に、ご協力とご支援をよろしくお願いします。

臨床教育研修センターが完成しました

福井大学医学部附属病院では、病院開院25周年記念事業として、主に福井大学医学部や旧福井医科大学の卒業生、関連病院、関連企業、学内教職員等からの寄附や法人本部からの支援を得て「福井大学医学部附属病院臨床教育研修センター」を新築し、この4月より使用を開始しました。

同センターは研修医を始めとして、新人看護師等の研修、薬学実習、医学生、看護学生の実技練習や診断学実習等に活用していきます。また、地域の医療関係者の研究会・講習会など生涯学習のためにも利用されることを想定しており、医療人教育の拠点として、実践重視型の教育環境を充実させ、地域社会のニーズに合った実践力の高い良質な医療人を育成することを目指しています。

平成21年4月現在、52名（歯科研修医2名を含む）の研修医が臨床研修を行っています。皆さまのより一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【次世代を担う医療人を育むために】

診療・教育・研究・・・その核となるのは何よりもまず「人」。
日進月歩の医療現場において、新しい技術や知識を修得する「場」を提供することが、地域社会を支える福井大学病院の使命です。

【建物の概要】

建設場所 福井大学松岡キャンパス 医学部附属病院南側
建築面積 605㎡、延床面積1109㎡、鉄骨鉄筋コンクリート構造、2階建

主 要 室 [1階]
- 研修医室　76㎡（仮眠室あり）
- スキルラボ　113㎡（70名収容）
- セミナー室3　37㎡（12名収容）
- 更衣室 男女各 39㎡（シャワー室あり）

[2階]
- メインホール［白翁会ホール］204㎡（100名収容）
- セミナー室1　81㎡（30名収容）
- セミナー室2　59㎡（30名収容）

フロアマップ

研修医室

研修の合間の休憩や、研修医同士の交流の場となる研修医専用のスペースです。電子カルテ端末5台を備え、自学自習や仕事の整理などもできます。仮眠室も3室設けました。ハードな研修の合間のわずかな仮眠が体力、知力を回復します。

スキルラボ

技能教育・研修の場として、実技修練のための器具やシミュレーターなどを備え、24時間使用できる体制となります。診断学実習やOSCE（客観的臨床能力試験）などの卒前教育やACLS（2次救命処置、心肺蘇生法等）講習会など、地域の医療関係者の教育訓練の拠点としても活用します。

セミナー室

10～30名程度の小規模研修会、カンファレンスや会議、講習会等でのグループワークなど多目的に活用します。メインホールと合わせて、こういった大・中・小の研修スペースを病院内に備えることで研修効率が一層向上します。

メインホール［白翁会（はくおうかい）ホール］

落ち着いた雰囲気のホールで、100名ぐらいの病院職員の研修会や、会議などに利用します。また、地域の医師等を交えた研究会・講習会など、生涯学習の拠点としても活用します。2部屋に分割して中規模研修や会議など多目的利用が期待されます。
＊ホール名は医学部同窓会の名称より名付けました。

福井大学保育施設
はなみずき保育園開設

はなみずき保育園の外観

福井大学では、本年４月から大学職員を対象とした保育施設「はなみずき保育園」を開設しました。この施設は、男女共同参画社会の実現と次世代育成支援対策の取組みの一つとして働きやすい職場環境づくり及び仕事と育児の両立支援を目的として設置したものです。

医師や看護師の勤務時間に配慮し、午前７時から午後１０時まで利用可能で、週に1日の夜間保育も実施します。

保育施設の概要は次のとおりです。

保育対象　生後8週間後から6歳（小学校就学前）までの本学の教職員の乳幼児

定　　員　20名

休 園 日　土・日曜日、祝日、年末年始（12月29日から翌年1月3日）

区　分	保育時間	保育料金
常時保育（月～金曜）	8：00～18：30	0～3歳未満　月額40,000円 3歳以上　月額30,000円
早朝保育（月～金曜）	7：00～8：00	30分当たり　200円
延長保育（月～金曜）	18：30～22：00	30分当たり　200円
夜間保育（木曜）	22：00～翌8：00	1時間当たり　100円
一時保育（月～金曜）	8：00～18：30	1時間当たり　400円 ※1回につき3,000円を上限とする

保育室の様子

園庭で“どろんこ遊び”に夢中な園児たち

病院用語Q&A

特定疾患治療研究事業とは？

～難病（特定疾患）患者の方を対象とした医療費の助成制度があります～

特定疾患治療研究事業とは、原因が不明であって治療方法が確立していない、いわゆる難病のうち特定の疾患について治療研究事業を推進することにより、医療の確立・普及を図るとともに、患者さんの医療費の一部を公費で負担し、医療費の負担の軽減を図ることを目的とした事業です。

対象となる疾患は、多発性硬化症、脊髄小脳変性症など45疾患です。疾患毎に認定基準があり、対象疾患であると診断された場合でも、症状や状態が認定基準を満たしていない場合には認定されません。事前に主治医にご相談のうえ、申請の手続きを行って下さい。

■ 問合せ・申請窓口

住民票のある市町を管轄する健康福祉センター（保健所）です。

■ 申請時に必要な書類

①特定疾患医療受給者証交付申請書
②臨床調査個人票（医師の診断書）
③同意書
④世帯調書
⑤生計中心者の所得状況確認書類
⑥住民票
⑦保険証
⑧印鑑
⑨（持っている方は）身体障害者手帳、障害年金証書、介護保険被保険者証

■ 特定疾患医療受給者証

対象患者であると認定されると「特定疾患医療受給者証」が交付されます。「特定疾患医療受給者証」の有効期間は、申請書が受理された日から最初の9月30日までです。
継続して助成を希望される場合には、毎年継続申請の手続きが必要です。

■ 一部自己負担の月額限度額（医療機関ごと）

区　分	入　院	外 来 等	患者さんご本人が生計中心者の場合
生計中心者の市町村民税が非課税の場合	0円	0円	0円
生計中心者の前年の所得税が非課税の場合	4,500円	2,250円	左欄により算出した額の1/2に該当する額
生計中心者の前年の所得税課税年額が5,000円以下の場合	6,900円	3,450円	
生計中心者の前年の所得税課税年額が5,001円以上15,000円以下の場合	8,500円	4,250円	
生計中心者の前年の所得税課税年額が15,001円以上40,000円以下の場合	11,000円	5,500円	
生計中心者の前年の所得税課税年額が40,001円以上70,000円以下の場合	18,700円	9,350円	
生計中心者の前年の所得税課税年額が70,001円以上の場合	23,100円	11,550円	

■ 特定疾患特別見舞金

福井県では、特定疾患で1年間に通算して6ヶ月以上の入院治療を受けた方に特定疾患特別見舞金が支給されます（一律30,000円）。問合せ・申請窓口は、各健康福祉センターです。これとは別に市町によっては、一定の要件を満たしている方を対象に、特定疾患特別見舞金が支給されます。こちらの問合せ・申請窓口は住民票のある市町です。

患者さんのこえ

ここでは、患者さんから寄せられた『ご意見』や『ご質問』に対してお答えしていきます。
また、今後もご意見やご質問を受け付けております。
お気軽にご投稿ください。

よろず相談窓口で
ご意見やご質問を
受け付けております

患者さんからの声

老人カートについて

老人カートの台数を増やして欲しい。
使おうとしても無い場合がある。

お返事

大変ご不便をおかけして、申し訳ありませんでした。
高齢者の方がご利用になる老人カートにつきましては、当院といたしましても患者さんからの声などを受け、規格や台数について検討して参りました。
その結果、老人カートを10台増やしましたので、ご利用くださいますようお願い申し上げます。

患者さんからの声

駐車場について

駐車場がなかなか見つからず、駐車場を探すのに疲れた。

お返事

大変ご迷惑をおかけして、申し訳ありませんでした。
昨年10月からの工事により、病院正面玄関前に駐車場（69台）を整備し、本年1月より使用可能となっておりますのでご利用くださいますようお願い申し上げます。

患者さんからの声

テレビのチャンネルについて

病室のテレビのチャンネルを増やして欲しい。

お返事

貴重なご意見ありがとうございます。
多チャンネル放送に関しましては、地上デジタル放送に向けて設備・機器等の整備や受信チャンネルの絞込みについて現在協議しておりますので、何卒ご了承のほど、よろしくお願いいたします。

感謝の言葉について

患者さんからの声

● 主治医の先生が毎日朝夕顔を見せていただきました。身体の状態や色々要望など対話が出来て安堵感が持てて助かりました。別の先生も治療後来られました。先生の笑顔や話術を毎日、待ちこがれているような気分になりました。看護師さんはたくさん居られて驚きましたが、皆さん良く勉強されていると思いました。皆さん、なかなかウィットに富んでいて感心しました。
私はいつも「極楽」に居るようで、ここでずうっと居たいと思うくらいでした。皆さんにお礼申し上げたいです。

● 料金を払うところの椅子がきれいになって気持ちよいです。
色もさわやかで寒い感じもせず、明るい感じでいいと思います。

● 貴院を受診するのも入院するのも初めてのことで、ましてや初診の後すぐの入院でしたから、不安や心配なことだらけでした。しかし、明るく礼儀正しい西病棟3 階の看護師の皆様と先生方の丁寧な対応に感激しました。一日に多い時で4 度、お部屋にお医者様がみえるなんて、とても信頼のおけることだと思います。質の高さを実感しました。
職員教育のきめ細やかさがスタッフの皆様の行動・言動ににじみ出ていると感心しました。大変お世話になり、ありがとうございました。

出来事

平成20年11月～平成21年4月

11/8（土）13:00～17:00（医学部附属病院 臨床大講義室及び手術室）
外科手術体験キッズセミナー
【内容】① シミュレーター（内視鏡外科手術をバーチャルに経験）
② 手術台上で電気メス・超音波メスによる模擬手術（鶏肉の切開）体験
③ 手術用の縫合糸を用いて糸結びトレーニング
④ 組織に見立てたスポンジを、縫合器械を使って縫合切離体験
⑤ トレーニングボックスを使用して、内視鏡外科手術に用いる鉗子操作体験

11/10（月）18:00～19:30（医学部附属病院 臨床大講義室）
第9回医療環境制御センター研修会
【テーマ】抗菌薬の考え方、使い方
～不適切な使用を制限するだけではなく、抗菌薬を適正に使用し、感染症の治癒や予防を最大限にもたらすことが重要～
講師：神戸大学感染症内科教授　岩田 健太郎 氏

11/12（水）17:30～19:00（医学部附属病院 臨床大講義室）
第10回医療環境制御センター研修会
労働安全衛生研修会及び医療機器の安全管理のための研修会
【報告】添付文書の取り扱いについて　講師：放射線部技師長　東村 享治 氏
【特別講演】5Sの取り組みの背景と現状について
講師：テルモ株式会社甲府東工場生産部　高橋 靖裕 氏

11/13（木）19:00～20:00（管理棟3階 大会議室）
がん診療推進センター講習会
【テーマ】病理組織診断：現況と今後の展望
講師：福井大学医学部医学科 病因病態医学講座 教授　伊藤 浩史 氏

11/17（月）17:30～19:00（医学部附属病院 臨床大講義室）
がん診療推進センター講習会
【テーマ】本院の緩和ケアの実情　講師：がん診療推進センター長　片山 寛次 氏
【テーマ】本院の緩和チームの紹介　講師：緩和医療部門長　須藤 哲 氏
【テーマ】デュロテップパッチの剤形変更について
講師：薬剤部薬剤主任　渡邊 享平 氏
【特別講演】緩和ケアにおける精神的ケア
講師：広島大学大学院保健学研究科 保健学専攻 心身機能生活制御科学講座教授
岡村 仁 氏

12/1（月）17:30～18:30（医学部附属病院 臨床大講義室）
医学部特別講演会
【テーマ】大学の発展のために ～文部科学省とのつき合い方～
講師：大阪大学医学部附属病院 未来医療センター 教授　赤塚 義英 氏

12/10（水）17:30～18:30（医学部附属病院 臨床大講義室）
薬害に関する講演会
【テーマ】医療事故・医療被害から何を学ぶか　講師：医療法人社団相和会新横浜ソーワクリニック 横浜総合健診センター院長　別府 宏圀 氏

12/18（木）11:00～14:00（医学部附属病院 臨床大講義室手前ロビー）
Vol.3 癒しのお茶会（Happy Xmas）
【主催】医療環境制御センター

12/18（木）18:00～19:30（医学部附属病院 臨床大講義室）
第13回医療環境制御センター研修会［NST勉強会］
【内容】① 摂食・嚥下障害の診断と治療
講師：福井大学耳鼻咽喉科 NST　須長 寛 氏
② 摂食・嚥下障害 リハビリテーションの実際
講師：福井大学リハビリテーション部 NST　酒井 仁美 氏

12/19（金）19:00～20:00（医学部研究棟3階会議室）
がん診療講習会
【テーマ】WHO除痛ラダーで改善しないがん性疼痛の治療ついて
講師：福井大学医学部 麻酔・蘇生学領域 准教授　廣瀬 宗孝 氏

1/15（木）19:00～20:00（医学部研究棟3階会議室）
がん講習会
【テーマ】PETがん診断の現状と可能性について
講師：福井大学 高エネルギー医学研究センター長
分子イメージング部門 教授　藤林 康久 氏

1/23（金）17:30～19:00（医学部附属病院 臨床大講義室）
看護部講演会［医療接遇 接遇向上のための実践的研修］
【テーマ】医療接遇 接遇向上のための実践的研修
～具体的な事例についてみんなで考えてみよう～
講師：株式会社 C-plan 代表取締役　NPO 法人日本医療コンジェルジュ研究所副理事長
佐藤 美智子 氏

2/3（火）18:00～19:00（医学部附属病院 臨床大講義室）
第15回医療環境制御センター研修会
【テーマ】中心静脈カテーテルの安全な挿入と管理
講師：名古屋市立大学 大学院臨床病態外科学教授　竹山 廣光 氏

2/5（木）17:30～19:00（医学部附属病院 臨床大講義室）
看護部講演会、第16回医療環境制御センター研修会
【テーマ】医療コンフリクトマネジメント ～総論～
講師：大阪大学コミュニケーションデザインセンター講師　中西 淑美 氏

2/7（土）10:00～11:30（アカデミーホール）
福井大学公開講座「福井大学発 最先端研究 ～明日への挑戦～」
【テーマ】PET分子イメージングによるがんの診断から治療へ
講師：福井大学 高エネルギー医学研究センター長
分子イメージング部門教授　藤林 康久 氏

2/12（木）17:00～18:30（医学部附属病院 臨床大講義室）
病院研修会
【テーマ】大学病院等における諸課題について
講師：文部科学省高等教育局 医学教育課 大学病院支援室 室長補佐　平野 浩之 氏
【テーマ】大学病院の役割『看護キャリアシステム構築プラン』
講師：文部科学省高等教育局 医学教育課 大学病院支援室 専門職　清水 多嘉子 氏

2/20（金）17:30～18:30（医学部附属病院 臨床大講義室））
臨床研究に関する講演会
【テーマ】治験及び臨床研究の新たな動き：活性化戦略と利益相反
講師：山口大学医学部附属病院 臨床試験支援センター長　神谷 晃 氏

2/25（水）18:30～19:30（医学部附属病院 臨床大講義室）
福井大学がん診療推進センター［がん講習会］
【テーマ】がんと栄養について　講師：福井大学医学部付属病院 がん診療推進センター長 NSTチアマン 診療教授　片山 寛次 氏

3/3（火）17:30～19:05（医学部附属病院 臨床大講義室）
第17回医療環境制御センター研修会
「平成20年度の医療安全と感染制御」
【テーマ】平成20年度 オカレンスの傾向と医療安全管理の取り組み
講師：医療安全管理部 江守GRM
【テーマ】医療機器に関するオカレンスの傾向と医療安全への取り組み
講師：ME 機器管理部 笠川臨床工学技士
【テーマ】本年度のオカレンスから アレルギー登録
講師：薬剤部 佐々木薬剤主任
【テーマ】感染性廃棄物 ゴミ分別への取り組み
講師：リンクナース 南部副看護師長
【テーマ】HIV／AIDS の福井県における現状と世界エイズデーの活動
講師：感染制御部 岩崎部長

3/26（木）19:00～20:00（医学部研究棟3階会議室）
がん診療推進センター講習会「がん患者の心理」
【テーマ】がん患者の心理
講師：福井大学医学部 病態制御医学講座 精神医学　須藤 哲 氏

3/30（月）13:00～14:30（福井大学医学部附属病院 臨床教育研修センター）
福井大学医学部附属病院 臨床教育研修センター竣工式
【次第】1. テープカット　2. 本学関係者・御来賓挨拶
3. 記念講演（卒後臨床研修センター 副センター長 寺澤 秀一 教授）
4. 施設見学

4/9（木）17:30～19:00（臨床教育研修センター メインホール）
診療支援部の設立記念会
【次第】1. 挨拶　2. 診療支援部の組織と運営について
3. 各部門の紹介
4. 特別記念講演【テーマ】診療支援部がめざすもの
講師：名古屋大学医学部附属病院 医療技術部長　森下 芳孝 氏

イベント情報

公開講座

6/6（土） 10:00〜12:30

1.インフルエンザウイルス

講 師　定　清直（福井大学医学部微生物学・教授）

内 容　医学の発達した今日、人類は再び最強ウイルスの脅威にさらされています。
自らを守るためには、まず目には見えないウイルスを知ること。
-そもそもウイルスとは何か? トリインフルエンザや新型インフルエンザとは何か?
基礎医学の立場から解りやすく講演します。
さらに、私が今取り組んでいる研究の最前線についても紹介します。

2.皮膚のがんに気づくために

講 師　熊切　正信（福井大学医学部皮膚科学・教授）

内 容　皮膚にできる「がん」は、手や足のホクロ、ヤケドの瘢痕、顔やからだのイボのなかに混じっている。
痛みや痒みがないからと放置すると手遅れとなり、肺や肝に転移して治療が難しくなる。
早く気づいて治療したい。目で見ることができるので、どのような形や色をしたできものが「がん」
であるか、あらかじめ知っていると「早期がん」のうちに治療することができる。
そのポイントを紹介したい。

場 所　福井大学アカデミーホール（文京キャンパス）

募集人数　100名　　対 象　一般、学生、教職員　　受講料　無料

イベント情報に関する問合せ先

福井大学地域貢献推進センター
（福井大学総務部総務課社会連携係）

TEL：0776-27-8060
http://tiiki.ab.fukui-u.ac.jp/facp/

編集後記

風薫るさわやかな季節になりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は福井大学病院だよりの第13号をお届けします。この福井大学病院だよりも、リニューアルして3冊目になります。我々病院のスタッフが常に患者さんに身近で信頼される存在でありたいという思いから、現場で頑張っている職員の元気な姿を表紙に載せております。今回は、いつもさわやかな対応をされているリハビリテーション部の女性技師さんです。

また本院では、病院のホームページもリニュアルして、地域の皆さんや患者さんにわかりやすく見やすい病院の情報を伝える目的で「患者・ご家族の皆様へ」のコーナーも設けておりますので、そちらもどうぞご覧いただきたいと思います。

私達は、これからも地域に生きる大学病院として、患者さんにより愛され、信頼される病院を目指してがんばっていきますので、ご意見・ご要望があればどうぞご遠慮なくお寄せください。よろしくお願いします。

広報室

福井大学医学部附属病院
広報委員会
〒910-1193　福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3
広報に関するご意見、ご要望をお寄せください。
TEL:0776-61-8615
Email:bkoho@ml.ccns.u-fukui.ac.jp

ISO9001:2000 認証登録証

登録日
2003年9月10日

「ISO」は、国際標準化機構（International Organization for Standardization）の略称です。 福井大学医学部付属病院では、「医療サービスの提供」について、「品質保証の仕組みの国際的な標準規格」に基づく認証を受け、「透明性・立証性・公平性・信頼性」に対する継続的な取り組みを通じて、患者様に安心で満足のいく医療を提供しています。